

この「通信」は、10月26日に行われた「鹿折まちづくり協議会とアドバイザーとの懇談会」の内容を、鹿折地区に住む住民の方々や被災して、地元を離れて暮らす方々に知っていただくため、発行しています。

- 日 時 2012年10月26日(土)  
14時00分～15時30分
- 参加者 17名  
(鹿折まちづくり協議会役員5名)  
(+アドバイザー2名)  
(+オブザーバー7名)
- 場 所 鹿折公民館
- 主催 鹿折まちづくり協議会

## 「鹿折地区まちづくり協議会とアドバイザーとの懇談会」

2012年10月26日に鹿折まちづくり協議会とアドバイザーとの懇談会が鹿折公民館で開催されました。

当日はアドバイザーに、神戸まちづくり研究所の野崎隆一氏と宮城大学の竹内泰准教授が参加し、懇談会をおこないました。はじめに、鹿折まちづくり協議会会長の鈴木博氏から開会の挨拶が行われました。

そのあと、相談役の小野寺優一氏(鹿折公民館長)から、鹿折まちづくり協議会で今後、考えていきたいこととして「鹿折地区振興協議会との連携」、「若手(30・40代世代)との繋がり」、「13地区以外の地区との関わり方」、「まちづくり協議会の活動内容と進め方」の4つの検討事項が挙げられました。

4つの検討事項をもとに、協議会の役員とアドバイザーとで、現在の鹿折の復興計画事業の現状を確認しながら、これからの協議会のあり方・活動の進め方について話し合いをおこないました。話し合いでは、鹿折地区の「土地区画整理事業」に関する意見が多く出されました。また、今後の鹿折のまちづくりの考え方についてもアドバイザーと意見交換を行いながら、「どのように鹿折のまちづくりを議論していくことが良いのか」を話し合いました。

最後に副会長の佐藤良治氏から締め挨拶を行って頂き、鹿折まちづくり協議会の懇談会は閉会となりました。

## ＊当日の概要・プログラム＊

### 1 開会・挨拶

懇談会の司会進行役に事務局の小松洋一氏が務め、はじめに会長の鈴木博氏から開会の挨拶がおこなわれました。

### 2 話し合い

3つの議題を出して話し合いを行いました。

- 〈1〉協議会の組織・運営体制について
- 〈2〉協議会の活動とその対応について
- 〈3〉これからの進め方について

### 3 閉会

閉会の挨拶を副会長の佐藤良治氏におこなっていただき、当日の鹿折まちづくり協議会の懇談会は閉会いたしました。

## 鹿折の復興計画に関する状況・決まっていること

- ・土地区画整理事業のエリアは9月に決定している。  
事業の認可は今年度の3月までには決定する予定。
- ・共徳丸の扱い、持ち主の解体希望。気仙沼市長は年内には答えを出す方針
- ・嵩上げエリアはL2レベルの津波でも浸水はしない想定で計画している。
- ・過去に土地区画整理事業を行っているため、基本的に道路線形の変更は行わない

鹿折まちづくり協議会役員の方々とアドバイザーによる話し合いの中で挙げた意見を以下にまとめました。「鹿折まちづくり協議会のあり方」や「鹿折の復興計画に関する意見」、「今後のまちづくりの考え方」の大きく3つの意見として挙がりました。

### 〈鹿折まちづくり協議会のあり方についての意見〉

- ・現在は道路や区画などまちの骨格の部分を協議していく必要がある。それを踏まえて、協議会がどのような役割を果たし、活動していくのか？
  - ・鹿折地区振興協議会や13地区以外の地区との関わり方や連携をどのように取っていくのか？
  - ・協議会が住民の意見をどのように集約していくのか？
  - ・まちづくり協議会に専属の事務所と常勤者が必要。

### 〈土地区画整理事業に関する意見〉

- ・協議会としては道路計画や嵩上げ等の計画に疑問を感じている。
- ・公民館の建設場所については市に要望している。防災施設や広場の設置なども公民館の機能として取り入れられるように考えていきたい
  - ・事業計画が決まるまであまり時間がない中で、どのような方法で、どのような話しをするのか検討する必要がある

### 〈今後のまちづくりの考え方についての意見〉

- ・かもめ通りや浪板の文化なども今後のまちづくりの議論として考えていきたい。
  - ・まえのまちを復旧することしか考えられない。他事例を紹介してほしい
    - ・鹿折の住民で復興計画を考えていく時間は少ない。
- ・URの土地区画整理事業や災害公営住宅の計画がある程度出てきたら、住民や協議会がその計画に沿って議論を行う。
- ・アドバイザーに鹿折の将来像の絵を書いてもらいたい。まちづくりの事例を紹介してほしい。